

関原発第499号

2020年1月30日

原子力規制委員会 殿

大阪市北区中之島3丁目6番16

関西電力株式会社

取締役社長 岩根 茂

工事計画認可申請書の一部補正について

2019年12月20日付け関原発第437号をもって申請しました工事計画認可申請書について、別紙のとおり一部補正します。

本資料のうち、枠囲みの内容は、
商業機密あるいは防護上の観点
から公開できません。

別紙

高浜発電所第4号機

工事計画認可申請書の一部補正

関西電力株式会社

目 次

- I. 補正項目
- II. 補正を必要とする理由を記載した書類
- III. 補正前後比較表
- IV. 補正内容を反映した書類

I. 補正項目

補正項目

補正項目及び補正箇所は下表のとおり。

補正項目	補正箇所
<p>II. 工事計画</p> <p>放射線管理施設</p> <p style="padding-left: 2em;">4 放射線管理施設の基本設計方針、適用基準及び適用規格</p> <p>その他発電用原子炉の附属施設</p> <p style="padding-left: 2em;">9 緊急時対策所</p> <p style="padding-left: 4em;">1 緊急時対策所機能</p> <p style="padding-left: 4em;">2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格</p>	<p>「III. 補正前後比較表」による。</p>
<p>V. 添付書類</p> <p style="padding-left: 2em;">1. 添付資料</p>	<p>「III. 補正前後比較表」による。</p>
<p>添付書類</p> <p>添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 添付資料目次 ・ 資料 1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書 ・ 資料 2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書 ・ 資料 3 中央制御室の機能に関する説明書 ・ 資料 5 緊急時対策所の機能に関する説明書 	<p>「III. 補正前後比較表」による。</p>

Ⅱ. 補正を必要とする理由を記載した書類

補正を必要とする理由

2019年12月20日付け関原発第437号にて申請した工事計画認可申請書について、「Ⅱ. 工事計画」、「Ⅴ. 添付書類」、「添付資料目次」、「資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書」、「資料2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書」、「資料3 中央制御室の機能に関する説明書」及び「資料5 緊急時対策所の機能に関する説明書」の記載の適正化を行うため補正する。

Ⅲ. 補正前後比較表

【Ⅱ. 工事計画 放射線管理施設 4 放射線管理施設の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<p>(2) 適用基準及び適用規格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="350 520 359 630">変更前</th> <th data-bbox="350 630 359 787">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="379 520 477 787"> <p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) </td> <td data-bbox="379 787 477 1094"> <p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) 	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) 	<p>(2) 適用基準及び適用規格</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1442 520 1451 630">変更前</th> <th data-bbox="1442 630 1451 787">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1472 520 1570 787"> <p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) </td> <td data-bbox="1472 787 1570 1094"> <p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) 	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に 	<p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p>
変更前	変更後									
<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) 	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月) 									
変更前	変更後									
<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) 	<p>第2章 個別項目 放射線管理施設に適用する個別項目の基準及び規格は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成25年6月19日原規技発第1306194号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年4月5日原規技発第1704051号) ・実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈 (平成29年11月29日原規技発第1711293号) ・発電用原子力設備に関する技術基準を定める省令の解釈 (平成17年12月15日原院第5号) ・鉱山保安法 (昭和24年法律第70号) 鉱山保安法施行規則 (平成16年9月27日経済産業省令第96号) ・発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針 (昭和51年9月28日原子力委員会決定) ・核原料物質又は核燃料物質の製錬の事業に関する規則等の規定に 									

【Ⅱ. 工事計画 放射線管理施設 4 放射線管理施設の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変 更 前	変 更 後	備 考								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) 	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) 	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) ・原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEA4622-2009) 平成21年6月23日制定 									
変更前	変更後									
<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) 	<p>27 日原子力安全委員会了承)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被ばく計算に用いる放射線エネルギー等について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・被曝計算に用いる放射線エネルギーについて (昭和46年7月6日原子炉安全専門審査会) ・発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針 (昭和56年7月23日原子力安全委員会決定) ・発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について (平成元年3月27日原子力安全委員会了承) ・発電用軽水型原子炉施設の安全評価に関する審査指針 (平成2年8月30日原子力安全委員会決定) ・発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針 (昭和57年1月28日原子力安全委員会決定) ・原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について (内規) (平成21・07・27 原院第1号平成21年8月12日原子力安全・保安院制定) 									

【II. 工事計画 放射線管理施設 4 放射線管理施設の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<table border="1" data-bbox="320 531 477 1688"> <thead> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAC4615-2003) </td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の他「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に関する審査ガイド」を参照する。</p>	変更前	変更後	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAC4615-2003) 	<table border="1" data-bbox="1418 531 1694 1688"> <thead> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) </td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の他「実用発電用原子炉に係る重大事故時の制御室及び緊急時対策所の居住性に関する審査ガイド」を参照する。</p>	変更前	変更後	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAC4615-2003) 									
変更前	変更後									
<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 	<ul style="list-style-type: none"> 原子力発電所中央制御室運転員の事故時被ばくに関する規程 (JEAC4622-2009) 平成21年6月23日制定 原子力発電所放射線遮へい設計規程 (JEAC4615-2008) 原子力発電所放射線遮へい設計指針 (JEAG4615-2003) 									

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 1 緊急時対策所機能】

変更前	変更後	備考
<p>その他発電用原子炉の附属施設</p> <p>9 緊急時対策所</p> <p>1 緊急時対策所機能</p> <p>以下の設備は、1号機設備であり、1号機、2号機、3号機及び4号機共用の設備である。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）（1号機設備、1・2・3・4号機共用）<input type="checkbox"/></p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 250px; margin-top: 10px;"></div> <p style="text-align: center;">- T4-II-8-9-1-1/E -</p>	<p>その他発電用原子炉の附属施設</p> <p>9 緊急時対策所</p> <p>1 緊急時対策所機能</p> <p>以下の設備は、1号機設備であり、1号機、2号機、3号機及び4号機共用の設備である。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）（1号機設備、1・2・3・4号機共用）^(注1)</p> <p><u>(注1) 同日付け関原発第495号（高浜発電所第1号機の工事計画変更）にて申請したものである。</u></p> <p style="text-align: center;">- T4-II-8-9-1-1/E -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考												
<p>2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格 (1) 基本設計方針</p> <p>本工事における「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の適用条文に係る範囲に限る。 なお、第1章並びに第2章における1. 2項については、平成31年4月26日付け原規規発第19042618号にて認可された工事計画による。</p> <table border="1" data-bbox="477 520 1113 1680"> <thead> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下</td> <td>第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下</td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)	変更なし	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	<p>2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格 (1) 基本設計方針</p> <p>本工事における「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の適用条文に係る範囲に限る。 1号機設備、1・2・3・4号機共用の設備に関する変更は、同日付け関原発第495号(高浜発電所第1号機の工事計画変更)にて申請したものである。 なお、第1章並びに第2章における1. 2項については、平成31年4月26日付け原規規発第19042618号にて認可された工事計画による。</p> <table border="1" data-bbox="1635 520 2211 1680"> <thead> <tr> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下</td> <td>第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下</td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)	変更なし	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	<p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p>
変更前	変更後													
用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)	変更なし													
第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下													
変更前	変更後													
用語の定義は「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」の第2条(定義)による。 それ以外の用語については以下に定義する。 1. 設置許可基準規則第12条第2項に規定される「安全機能を有する系統のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するもの」(解釈を含む。)を重要施設とする。(以下「重要施設」という。) 2. 設計基準対象施設のうち、安全機能を有するものを安全施設とする。(以下「安全施設」という。) 3. 安全施設のうち、安全機能の重要度が特に高い安全機能を有するものを重要安全施設とする。(以下「重要安全施設」という。)	変更なし													
第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下	第2章 個別項目 1. 緊急時対策所 1. 1 緊急時対策所の設置等 (1) 1次冷却材喪失事故等」という。)が発生した場合に適切な措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)(1号機設備、1・2・3・4号機共用(以下													

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">変更前</td> <td style="width: 50%;">変更後</td> </tr> <tr> <td> <p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p> </td> <td> <p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p> </td> </tr> </table>	変更前	変更後	<p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p>	<p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50%;">変更前</td> <td style="width: 50%;">変更後</td> </tr> <tr> <td> <p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> </td> <td> <p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> </td> </tr> </table>	変更前	変更後	<p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p>	<p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p>	<p>同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p> <p>(3) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p>									
変更前	変更後									
<p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p>	<p>措置をとるため、緊急時対策所機能を備えた緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) (1号機設備、1・2・3・4号機共用 (以下同じ。)) を1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室以外の場所に設置する。</p> <p>(2) 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、重大事故等が発生した場合においても当該事故等に対処するための適切な措置が講じられるよう、緊急時対策所機能に係る設備を含め、以下の措置を講じる。</p> <p>a. 基準地震動に対する地震力に対し、機能が損なわれるおそれがないようにするとともに、標高 25m に設置し、基準津波の影響を受けない設計とする。</p> <p>b. 機能に係る設備は、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室との共通要因により同時に機能喪失しないよう、1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室に対して独立性を有する設計とする。ともに1号機及び2号機並びに3号機及び4号機中央制御室とは離れた位置に設置又は保管する設計とする。</p> <p>c. 緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) は、代替交流電源からの給電を可能な設計とし、代替電源設備からの給電を可能とするよう、希ガス等の放射性物質の放出時に緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) の外側で操作及び作業を行わないことを考慮しても1号機で緊急時対策所 (緊急時対策所建屋内) に給電するために必要な容量を有する電源車 (緊急時対策所用) を予備も含めて設けることで、多重性を確保する。</p>									

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考
<p>変更前</p> <p>a. 居住性の確保 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）は、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するために必要な指示を行うための要員等を収容することができるとともに、それら関係要員が必要な期間にわたり滞在できる設計とする。また、重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員に加え、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な要員を含め、重大事故等に対処するために必要な数の要員を収容することができるとともに、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員等がとどまることができよう、適切な遮蔽設計及び換気設計を行い、居住性を確保する。</p> <p>重大事故が発生した場合における緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の居住性については、想定する放射性物質の放出量等を東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とし、かつ、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）内でのマスクの着用、交代要員体制及び安定よう素剤の服用がなく、仮設設備を考慮しない条件において、1・2・3・4号機の同時被災を考慮しても、「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）」の手法を参考とした被ばく評価により、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えないことを判断基準とする。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所（緊急時対策所</p>	<p>変更後</p> <p>(3) 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p> <p>a. 居住性の確保 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）は、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するために必要な指示を行うための要員等を収容することができるとともに、それら関係要員が必要な期間にわたり滞在できる設計とする。また、重大事故等が発生した場合においても、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員に加え、原子炉格納容器の破損等による発電所外への放射性物質の拡散を抑制するための対策に対処するために必要な数の要員を含め、重大事故等に対処するために必要な数の要員を収容することができるとともに、当該事故等に対処するために必要な指示を行う要員等がとどまることができよう、適切な遮蔽設計及び換気設計を行い、居住性を確保する。</p> <p>重大事故が発生した場合における緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の居住性については、想定する放射性物質の放出量等を東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故と同等とし、かつ、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）内でのマスクの着用、交代要員体制及び安定よう素剤の服用がなく、仮設設備を考慮しない条件において、1・2・3・4号機の同時被災を考慮しても、「原子力発電所中央制御室の居住性に係る被ばく評価手法について（内規）」の手法を参考とした被ばく評価により、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）にとどまる要員の実効線量が事故後7日間で100mSvを超えないことを判断基準とする。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所（緊急時対策所</p>	<p>備考</p> <p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p>
<p>- T4-II-8-9-2-3 -</p>	<p>- T4-II-8-9-2-3 -</p>	<p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考								
<p style="text-align: center;">変更前</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p>	<p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p>	<p style="text-align: center;">変更後</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更前</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> </td> </tr> </tbody> </table>	変更前	変更後	<p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p>	<p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p>	<p style="text-align: center;">備考</p> <p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>
変更前	変更後									
<p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p>	<p>建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処する</p>									
変更前	変更後									
<p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p>	<p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、放射線管理施設のうち、必要な遮蔽能力を有した生体遮蔽装置、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内を正圧に加圧し放射性物質の侵入を低減又は防止する換気設備並びに、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内への希ガス等の放射性物質の侵入を低減又は防止するための確実な判断ができるよう放射線量を監視、測定する放射線管理用計測装置により、居住性を確保できる。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等あるいは重大事故等が発生した場合において、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内の酸素濃度及び二酸化炭素濃度が事故対策のための活動に支障がない範囲にあることを正確に把握できるよう、可搬型の酸素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))及び二酸化炭素濃度計(1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管(以下同じ。))を使用して1個以上と故障時及び保守点検時のバックアップ用として2個を含めて合計3個以上保管する。</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、重大事故等が発生し、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側が放射性物質により汚染したような状況下において、重大事故等に対処するための要員等が緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)の外側から室内に放射性物質による汚染を持ち込むことを防止できるよう、身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画を設置する設計とする。身体サーベイ及び作業服の着替え等を行うための区画では、放射線管理用計測装置を用いて出入管理を行い、汚染の持ち込みを防止する。</p> <p>b. 情報の把握</p>									

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更前</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p> </td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更後</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p> </td> </tr> </table>	<p>変更前</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>	<p>変更後</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更前</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p> </td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更後</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p> </td> </tr> </table>	<p>変更前</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p>	<p>変更後</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>
<p>変更前</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>	<p>変更後</p> <p>ために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>					
<p>変更前</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p>	<p>変更後</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）において、1次冷却材喪失事故等に対処するために必要な情報及び重大事故等に対処するために必要な情報を、中央制御室内の運転員を介さずに正確かつ速やかに把握できる情報収集設備（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」、「3号機設備、1・2・3・4号機共用、3号機に設置」(以下同じ。))を設置する。</p> <p>情報収集設備として、事故状態等の必要な情報を把握するために必要なパラメータ等を収集し、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）で表示できるよう、安全パラメータ表示システム（SPDS）及び安全パラメータ伝送システムを制御建屋に設置し、SPDS表示装置を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に設置する。また、緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）へ重大事故等に対処するために必要なデータを伝送できるデータ伝送設備（発電所内）として、安全パラメータ表示システム（SPDS）（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を制御建屋に一式設置し、SPDS表示装置（「1号機設備、1・2・3・4号機共用、1・3・4号機に設置」(以下同じ。))を緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）に必要数量一式設置する。SPDS表示装置については、そのシステムを構成する一部の設備を3・4号機に設置する設計とする。</p> <p>なお、安全パラメータ表示システム（SPDS）及びSPDS表示装置は、計測制御系統施設の計測装置及び通信連絡設備の設備で兼用する。安全パラメータ伝送システムは、計測制御系統施設の設備の設備で兼用する。</p>					

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考
<p>変更前</p> <p>c. 通信連絡 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）には、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するため、計測制御系統施設の通信連絡設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置）、1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管、3号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置（以下同じ。）により、発電所内の関係要員への指示を行うために必要な通信連絡及び発電所外関係箇所と専用であって多様性を備えた通信回線にて通信連絡できる。また、重大事故等が発生した場合においても、通信連絡設備により発電所の内外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡できる。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の通信連絡設備として、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムを設置又は保管する。なお、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムについては、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム（ERSS）等へ必要なデータ</p>	<p>変更後</p> <p>c. 通信連絡 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）には、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するため、計測制御系統施設の通信連絡設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置）、1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管、3号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置（以下同じ。）により、発電所内の関係要員への指示を行うために必要な通信連絡及び発電所外関係箇所と専用であって多様性を備えた通信回線にて通信連絡できる。また、重大事故等が発生した場合においても、通信連絡設備により発電所の内外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡できる。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の通信連絡設備として、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムを設置又は保管する。なお、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムについては、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>	<p>備考</p> <p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p>
<p>変更前</p> <p>c. 通信連絡 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）には、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するため、計測制御系統施設の通信連絡設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置）、1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管、3号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置（以下同じ。）により、発電所内の関係要員への指示を行うために必要な通信連絡及び発電所外関係箇所と専用であって多様性を備えた通信回線にて通信連絡できる。また、重大事故等が発生した場合においても、通信連絡設備により発電所の内外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡できる。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の通信連絡設備として、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムを設置又は保管する。なお、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムについては、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p> <p>また、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、発電所内から発電所外の緊急時対策支援システム（ERSS）等へ必要なデータ</p>	<p>変更後</p> <p>c. 通信連絡 緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）には、1次冷却材喪失事故等が発生した場合において、当該事故等に対処するため、計測制御系統施設の通信連絡設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置）、1号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に保管、3号機設備、1・2・3・4号機共用、1号機に設置（以下同じ。）により、発電所内の関係要員への指示を行うために必要な通信連絡及び発電所外関係箇所と専用であって多様性を備えた通信回線にて通信連絡できる。また、重大事故等が発生した場合においても、通信連絡設備により発電所の内外の通信連絡をする必要のある場所と通信連絡できる。</p> <p>緊急時対策所（緊急時対策所建屋内）の通信連絡設備として、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムを設置又は保管する。なお、衛星電話（固定）、衛星電話（携帯）、衛星電話（可搬）、緊急時衛星通報システム、携行型通話装置、統合原子力防災ネットワークに接続する通信連絡設備、運転指令設備、電力保安通信用電話設備、加入電話、加入ファクシミリ、無線通話装置及び社内TV会議システムについては、計測制御系統施設の通信連絡設備の設備で兼用する。</p>	<p>備考</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>

【Ⅱ. 工事計画 その他発電用原子炉の附属施設 9 緊急時対策所 2 緊急時対策所の基本設計方針、適用基準及び適用規格】

変更前	変更後	備考				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p> </td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更後</p> <p>待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p> </td> </tr> </table>	<p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p>	<p>変更後</p> <p>待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p> </td> <td style="width: 50%; text-align: center; vertical-align: top;"> <p>変更後</p> <p>を踏まえ、固定源及び可動源を特定する。 固定源に対しては、固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p> </td> </tr> </table>	<p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p>	<p>変更後</p> <p>を踏まえ、固定源及び可動源を特定する。 固定源に対しては、固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p>
<p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p>	<p>変更後</p> <p>待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p>					
<p>変更前</p> <p>2. 主要対象設備 緊急時対策所の対象となる主要な設備について、「表1 緊急時対策所の主要設備リスト」に示す。</p>	<p>変更後</p> <p>を踏まえ、固定源及び可動源を特定する。 固定源に対しては、固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等の現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定し、指示要員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。 可動源に対しては、緊急時対策所換気設備（1号機設備、1・2・3・4号機共用）の隔離等の対策により指示要員を防護できる設計とする。 有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p>2. 主要対象設備 変更なし</p>					

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【V. 添付書類 1. 添付資料】

変 更 前	変 更 後	備 考
<p>1. 添付資料</p> <p>資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書</p> <p>資料2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書</p> <p>資料3 中央制御室の機能に関する説明書</p> <p>資料4 中央制御室の居住性に関する説明書</p> <p><u>資料5 緊急時対策所の機能に関する説明書</u></p> <p style="text-align: center;">- T4-V-1/E -</p>	<p>1. 添付資料</p> <p>資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書</p> <p>資料2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書</p> <p>資料3 中央制御室の機能に関する説明書</p> <p>資料4 中央制御室の居住性に関する説明書</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100px; height: 15px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">- T4-V-1/E -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【添付資料目次】

変 更 前	変 更 後	備 考
<p style="text-align: center;">目 次</p> <p>資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書</p> <p>資料2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書 資料2-1 設計及び工事に係る品質管理の方法等 資料2-2 本工事計画に係る設計の実績、工事及び検査の計画 放射線管理施設 資料2-3 本工事計画に係る設計の実績、工事及び検査の計画 緊急時対策所</p> <p>資料3 中央制御室の機能に関する説明書 別添 固定源及び可動源の特定について 別紙1 調査対象とする有毒化学物質について 別紙2 敷地外固定源の特定に係る調査対象法令の選定について</p> <p>資料4 中央制御室の居住性に関する説明書</p> <p><u>資料5 緊急時対策所の機能に関する説明書</u></p> <p style="text-align: center;">- T4-添-1/E -</p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p>資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書</p> <p>資料2 設計及び工事に係る品質管理の方法等に関する説明書 資料2-1 設計及び工事に係る品質管理の方法等 資料2-2 本工事計画に係る設計の実績、工事及び検査の計画 放射線管理施設 資料2-3 本工事計画に係る設計の実績、工事及び検査の計画 緊急時対策所</p> <p>資料3 中央制御室の機能に関する説明書 別添 固定源及び可動源の特定について 別紙1 調査対象とする有毒化学物質について 別紙2 敷地外固定源の特定に係る調査対象法令の選定について</p> <p>資料4 中央制御室の居住性に関する説明書</p> <div style="border: 2px solid black; width: 100px; height: 15px; margin: 10px auto;"></div> <p style="text-align: center;">- T4-添-1/E -</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 T4-添1-1</p> <p>2. 基本方針 T4-添1-1</p> <p>3. 記載の基本事項 T4-添1-1</p> <p>4. 発電用原子炉の設置の許可との整合性</p> <p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備</p> <p>ロ. 発電用原子炉施設の一般構造</p> <p> (3) その他の主要な構造 T4-添1-ロ-1</p> <p> (i) a. 設計基準対象施設</p> <p>ヘ. 計測制御系統施設の構造及び設備</p> <p> (5) その他の主要な事項 T4-添1-ヘ-1</p> <p> (v) 中央制御室</p> <p>ヌ. その他発電用原子炉の附属施設の構造及び設備</p> <p> (3) その他の主要な事項 T4-添1-ヌ-1</p> <p> (viii) 緊急時対策所</p> <p style="text-align: center;">- T4-添 1-i -</p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 T4-添1-1</p> <p>2. 基本方針 T4-添1-1</p> <p>3. 記載の基本事項 T4-添1-1</p> <p>4. 発電用原子炉の設置の許可との整合性</p> <p>五、発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備</p> <p>ロ. 発電用原子炉施設の一般構造</p> <p> (3) その他の主要な構造 T4-添1-ロ-1</p> <p> (i) a. 設計基準対象施設</p> <p>ヘ. 計測制御系統施設の構造及び設備</p> <p> (5) その他の主要な事項 T4-添1-ヘ-1</p> <p> (v) 中央制御室</p> <p style="text-align: center;">- T4-添 1-i -</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p>1. 概要 本資料は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法」という。）第43条の3の8第1項の許可を受けたところによる工事の計画であることが法第43条の3の9第3項第1号で認可基準として規定されており、当該基準に適合することを説明するものである。</p> <p>2. 基本方針 工事の計画が高浜発電所 発電用原子炉設置変更許可申請書（以下「設置許可申請書」という。）の基本方針に従った詳細設計であることを、設置許可申請書との整合性により示す。 設置許可申請書との整合性は、設置許可申請書「本文（五号）」と工事計画のうち「基本設計方針」及び「機器等の仕様に関する記載事項（以下、「要目表」という。）」について示す。 また、「本文（十号）」に記載する解析条件との整合性、設置許可申請書「添付書類八」のうち「本文（五号）」に係る設備設計を記載している箇所についても整合性を示す。 なお、変更の工事において、変更に係る内容が許可の際の申請書等の記載事項でない場合においては、許可に抵触するものでないため、本資料には記載しない。</p> <p>3. 記載の基本事項 (1) 説明書の構成は比較表形式とし、左欄から「本文」、「添付書類八」、「工事の計画」、「整合性」及び「備考」を記載する。 (2) 説明書の記載順は、「本文（五号）」に記載する順とする。なお、「本文（十号）」については、「本文（五号）」内の該当箇所に挿入する。 (3) 設置許可申請書と工事の計画の記載が同等の箇所には、実線のアンダーラインで明示する。表記等が異なる場合には破線のアンダーラインを引くとともに、工事の計画が設置許可申請書と整合していることを明示する。 (4) 工事の計画のうち要目表は、必要により既認可分を記載する。 (5) 「本文（十号）」との整合性に関する補足説明は一重枠囲みにより記載する。「本文（五号）」との整合性に関する補足説明は原則として「整合性」欄に記載するが、欄内に記載しきれないものについては別途、二重枠囲みにより記載する。</p>	<p>1. 概要 本資料は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法」という。）第43条の3の8第1項の許可を受けたところによる工事の計画であることが法第43条の3の9第3項第1号で認可基準として規定されており、当該基準に適合することを説明するものである。</p> <p>2. 基本方針 工事の計画が高浜発電所 発電用原子炉設置変更許可申請書（以下「設置許可申請書」という。）の基本方針に従った詳細設計であることを、設置許可申請書との整合性により示す。 設置許可申請書との整合性は、設置許可申請書「本文（五号）」と工事計画のうち「基本設計方針」及び「機器等の仕様に関する記載事項（以下、「要目表」という。）」について示す。 また、「本文（十号）」に記載する解析条件との整合性、設置許可申請書「添付書類八」のうち「本文（五号）」に係る設備設計を記載している箇所についても整合性を示す。 なお、変更の工事において、変更に係る内容が許可の際の申請書等の記載事項でない場合においては、許可に抵触するものでないため、本資料には記載しない。 また、設備の共用に関する記載を除き高浜発電所第1号機の工事計画と相違ない基本設計方針は、同日付け関原発第495号にて申請した高浜発電所第1号機の工事計画変更の添付資料1「発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書」において、設置許可申請書との整合性を示しているため、本資料には記載しない。</p> <p>3. 記載の基本事項 (1) 説明書の構成は比較表形式とし、左欄から「本文」、「添付書類八」、「工事の計画」、「整合性」及び「備考」を記載する。 (2) 説明書の記載順は、「本文（五号）」に記載する順とする。なお、「本文（十号）」については、「本文（五号）」内の該当箇所に挿入する。 (3) 設置許可申請書と工事の計画の記載が同等の箇所には、実線のアンダーラインで明示する。表記等が異なる場合には破線のアンダーラインを引くとともに、工事の計画が設置許可申請書と整合していることを明示する。 (4) 工事の計画のうち要目表は、必要により既認可分を記載する。 (5) 「本文（十号）」との整合性に関する補足説明は一重枠囲みにより記載する。「本文（五号）」との整合性に関する補足説明は原則として「整合性」欄に記載するが、欄内に記載しきれないものについては別途、二重枠囲みにより記載する。</p>	<p>記載の適正化</p>

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前		変更後		備考
設置変更許可申請書(本文)	設置変更許可申請書(添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考
<p>(ae) 緊急時対策所</p> <p><中略></p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、有毒ガスが重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員に及ぼす影響により、重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがない設計とする。</p>	<p>10. その他発電用原子炉の附属施設</p> <p>10.10 緊急時対策所</p> <p>10.10.1 通常運転時等</p> <p>10.10.1.1 概要</p> <p><中略></p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、有毒ガスが重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員に及ぼす影響により、当該要員の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがない設計とする。</p> <p>10.10.1.2 設計方針</p> <p>(6) 有毒ガスが重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員に及ぼす影響により、当該要員の対応能力が著しく低下しないこととなり、事故対策に必要な各種の指示・操作を行うことができる設計とする。</p> <p>そのために、固定源及び可動源それぞれに対して有毒ガス防護に係る影響評価を実施する。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価に当たっては、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から、重毒化学物質の揮発性等の状態、貯蔵量、建屋内滞留、換気等の防護状況等を調査し、建屋内及び中央制御室等から半径10m以内にある敷地外の固定源及び可動源を特定し、特定した有毒化学物質に対して有害ガス影響を軽減することを期する防護措置は、現場の防護状況を調査し、評価条件を決定する。</p> <p>固定源に対しては、重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員の呼吸中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。可動源に対しては、緊急時対策所換気設備の設置等の対策により重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員を防護できる設計とする。</p>	<p>【緊急時対策所】 (基本設計方針)</p> <p>1. 緊急時対策所</p> <p>(3) 緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。</p> <p>d. 有毒ガスに対する防護措置</p> <p>緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)は、有毒ガスが重大事故等に発生するために必要な指示を行う要員(以下「指示要員」という。)に及ぼす影響により、指示要員の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建屋内)内にことごと必要な指示、操作を行うことができる設計とする。</p> <p>敷地内外において防護施設に係る評価されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質(以下「固定源」という。)及び敷地内において輸送手段の輸送容器に係る評価されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質(以下「可動源」という。)それぞれに対して有害ガスが発生した場合の影響評価(以下「有毒ガス防護に係る影響評価」という。)を実施する。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価に当たっては、「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」を参照して評価を実施し、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から重毒化学物質の性状、防護状況等を調査し、固定源及び可動源を特定する。</p> <p>固定源に対しては、固定源の有害ガス影響を軽減することを期する防護措置等の現場の防護状況を調査し、評価条件を決定し、指示要員の呼吸中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回るよう設計する。</p> <p>可動源に対しては、緊急時対策所換気設備(1号機設備、1・2・3・4号機共用)の設置等の対策により指示要員を防護できる設計とする。</p>		

記載の適正化

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">設置変更許可申請書（本文）</th> <th style="width: 33%;">設置変更許可申請書（係付書類八）該当事項</th> <th style="width: 33%;">工事の計画 該当事項</th> <th style="width: 15%;">整合性</th> <th style="width: 5%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>施設欄による実施、緊急時対応が換気設備の故障、防護具の着用等により重大事故等に対応するために必要な指示を行う要員を削減できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> </td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	設置変更許可申請書（本文）	設置変更許可申請書（係付書類八）該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考	<p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>施設欄による実施、緊急時対応が換気設備の故障、防護具の着用等により重大事故等に対応するために必要な指示を行う要員を削減できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>			<p>—</p>	<p>記載の適正化</p>
設置変更許可申請書（本文）	設置変更許可申請書（係付書類八）該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考								
<p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>施設欄による実施、緊急時対応が換気設備の故障、防護具の着用等により重大事故等に対応するために必要な指示を行う要員を削減できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガスの影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>										

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考																				
<table border="1"> <tr> <th data-bbox="246 1459 311 1816">設置変更許可申請書 (本文)</th> <th data-bbox="311 1459 549 1816">設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項</th> <th data-bbox="549 1459 1127 1816">工事の計画 該当事項</th> <th data-bbox="246 976 311 1459">整合性</th> <th data-bbox="246 409 311 976">備考</th> </tr> <tr> <td data-bbox="341 1459 1113 1816"> <p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」並びに「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="341 1081 1113 1459"> <p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="341 682 1113 1081"> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="341 409 1113 682"> <p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="341 409 1113 682"> <p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。</p> </td> </tr> </table>	設置変更許可申請書 (本文)	設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考	<p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」並びに「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。</p>	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1335 1459 1400 1816">設置変更許可申請書 (本文)</th> <th data-bbox="1335 1081 1400 1459">設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項</th> <th data-bbox="1335 682 1400 1081">工事の計画 該当事項</th> <th data-bbox="1335 409 1400 682">整合性</th> <th data-bbox="1335 409 1400 682">備考</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1439 1459 2211 1816"> <p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="1439 1081 2211 1459"> <p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="1439 682 2211 1081"> <p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="1439 409 2211 682"> <p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> <td data-bbox="1439 409 2211 682"> <p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。 ①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p> </td> </tr> </table>	設置変更許可申請書 (本文)	設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考	<p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。 ①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>記載の適正化 (頁の変更)</p>
設置変更許可申請書 (本文)	設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考																		
<p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」並びに「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。</p>																		
設置変更許可申請書 (本文)	設置変更許可申請書 (添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考																		
<p>また、中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するするための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員その他の従事者が中央制御室に入力するための区域は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、運転員の勤務形態を考慮し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>【放射線管理施設】 (基本設計方針) 2. 換気設備、在休設備設置 中央制御室及びこれに連絡する連絡室並びに運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>	<p>工事の計画の基本設計方針「2.1 中央制御室、緊急時に対するための居住性を確保するための居住性を確保する目的を達成している。」を再掲。 ①工事の計画の「取り込み」は、緊急時に対するための居住性を確保する目的を達成している。 ②工事の計画の「中央制御室」は、運転員が過度の被ばくを受けないよう確保し、事故後30日間において、運転員が中央制御室に入り、かつ、中央制御室を通過する放射線による線量、中央制御室に侵入した外気による線量及び入退室時の線量が、中央制御室空調設備等の機能とあいまって、④「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑤「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。 ⑥「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」及び「運用期間原子炉及びその附属施設の技術基準に関する原則」に示される10mSvを下限値とするように濃度を絞る。</p>																		

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考															
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="243 373 549 420">設置変更許可申請書(本文)</th> <th data-bbox="243 420 549 483">設置変更許可申請書(添付書類A) 該当事項</th> <th data-bbox="243 483 549 546">工事の計画 該当事項</th> <th data-bbox="243 546 549 609">整合性</th> <th data-bbox="243 609 549 661">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="549 373 1121 420"> ス、その他発電用原子炉の附属施設の構造及び設備 (3) その他の主要な事項 (4) 緊急時対策所 </td> <td data-bbox="549 420 1121 483"> 10. その他発電用原子炉の附属施設 10.10 緊急時対策所 10.10.1 通常運転時等 10.10.1.1 概要 </td> <td data-bbox="549 483 1121 546"> 【緊急時対策所】 (基本設計方針) 1. 緊急時対策所 1.1 緊急時対策所の設置等 (3) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。 d. 有毒ガスに対する防護措置 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="549 546 1121 609"> 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="549 609 1121 661"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1121 373 1261 420"> (5) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="1121 420 1261 483"> 10.10.1.2 設計方針 (5) 有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="1121 483 1261 546"> 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="1121 546 1261 609"> 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。 </td> <td data-bbox="1121 609 1261 661"></td> </tr> </tbody> </table>	設置変更許可申請書(本文)	設置変更許可申請書(添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考	ス、その他発電用原子炉の附属施設の構造及び設備 (3) その他の主要な事項 (4) 緊急時対策所	10. その他発電用原子炉の附属施設 10.10 緊急時対策所 10.10.1 通常運転時等 10.10.1.1 概要	【緊急時対策所】 (基本設計方針) 1. 緊急時対策所 1.1 緊急時対策所の設置等 (3) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。 d. 有毒ガスに対する防護措置 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。		(5) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	10.10.1.2 設計方針 (5) 有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。		<p style="text-align: center;">- T4-添1-3-1 -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
設置変更許可申請書(本文)	設置変更許可申請書(添付書類A) 該当事項	工事の計画 該当事項	整合性	備考													
ス、その他発電用原子炉の附属施設の構造及び設備 (3) その他の主要な事項 (4) 緊急時対策所	10. その他発電用原子炉の附属施設 10.10 緊急時対策所 10.10.1 通常運転時等 10.10.1.1 概要	【緊急時対策所】 (基本設計方針) 1. 緊急時対策所 1.1 緊急時対策所の設置等 (3) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)は、以下の措置又は設備を備えることにより緊急時対策所機能を確保する。 d. 有毒ガスに対する防護措置 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。														
(5) 緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	10.10.1.2 設計方針 (5) 有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に起因する緊急事態に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。	緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内は、有毒ガスが重大事故等に発生した場合に必要となるため、(指示要員)により、(指示要員)に及ぼす影響により、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、(指示要員)の対応能力が著しく低下し、安全施設の安全機能が損なわれることがないよう、緊急時対策所(緊急時対策所建設域)内にとどまり必要な指示、操作を行うことができる設計とする。														

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料1 発電用原子炉の設置の許可との整合性に関する説明書】

変更前	変更後	備考					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>設置変更許可申請書（本文）</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p style="text-align: center;"><中略></p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>設置変更許可申請書（添付書類A）該当事項</p> <p>互動源に於ては、「10.13 通信連絡設備」に記載する通信連絡設備による連絡、緊急時対応用無線設備の設置、防護具の着用等により重大事象等に発生するおりに必要が指圧を行う要員を防護できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top; padding: 5px;"> <p>工事の計画 該当事項</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> </td> <td style="width: 3%; vertical-align: top; padding: 5px;">整合性</td> <td style="width: 3%; vertical-align: top; padding: 5px;">備考</td> </tr> </table>	<p>設置変更許可申請書（本文）</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p style="text-align: center;"><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（添付書類A）該当事項</p> <p>互動源に於ては、「10.13 通信連絡設備」に記載する通信連絡設備による連絡、緊急時対応用無線設備の設置、防護具の着用等により重大事象等に発生するおりに必要が指圧を行う要員を防護できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>工事の計画 該当事項</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	整合性	備考	<p>—</p>	<p>記載の適正化</p>
<p>設置変更許可申請書（本文）</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p> <p style="text-align: center;"><中略></p>	<p>設置変更許可申請書（添付書類A）該当事項</p> <p>互動源に於ては、「10.13 通信連絡設備」に記載する通信連絡設備による連絡、緊急時対応用無線設備の設置、防護具の着用等により重大事象等に発生するおりに必要が指圧を行う要員を防護できる設計とする。</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	<p>工事の計画 該当事項</p> <p>有毒ガス防護に係る影響評価において、有毒ガス影響を軽減することを期待する防護措置は、必要に応じて保守管理及び運用管理を適切に実施する。</p>	整合性	備考			

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 T4-添3-1</p> <p>2. 基本方針 T4-添3-2</p> <p> 2.1 有毒ガスに対する防護措置 T4-添3-2</p> <p> 2.2 適用基準及び適用規格等 T4-添3-2</p> <p>3. 中央制御室の機能に係る詳細設計 T4-添3-3</p> <p> 3.1 有毒ガスに対する防護措置 T4-添3-3</p> <p> 3.1.1 固定源に対する防護措置 T4-添3-3</p> <p> 3.1.2 可動源に対する防護措置 T4-添3-3</p> <p>4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価 T4-添3-5</p> <p> 4.1 評価条件 T4-添3-5</p> <p> 4.1.1 評価の概要 T4-添3-5</p> <p> 4.1.2 評価事象の選定 T4-添3-5</p> <p> 4.1.3 有毒ガス到達経路の選定 T4-添3-5</p> <p> 4.1.4 有毒ガス放出率の計算 T4-添3-5</p> <p> 4.1.5 大気拡散の評価 T4-添3-7</p> <p> 4.1.6 有毒ガス濃度評価 T4-添3-10</p> <p> 4.1.7 有毒ガス防護判断基準値 T4-添3-10</p> <p> 4.1.8 有毒ガス防護判断基準値に対する割合 T4-添3-10</p> <p> 4.1.9 有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算及び判断基準値との比較 T4-添3-11</p> <p> 4.2 評価結果 T4-添3-11</p> <p> 4.2.1 有毒ガス防護判断基準値に対する割合 T4-添3-11</p> <p> 4.2.2 有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算 T4-添3-11</p> <p> 4.3 有毒ガス濃度評価のまとめ T4-添3-11</p> <p>別添 固定源及び可動源の特定について</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-i -</p>	<p style="text-align: center;">目 次</p> <p style="text-align: right;">頁</p> <p>1. 概要 T4-添3-1</p> <p>2. 基本方針 T4-添3-2</p> <p> 2.1 有毒ガスに対する防護措置 T4-添3-2</p> <p> 2.2 適用基準及び適用規格等 T4-添3-2</p> <p>3. 中央制御室の機能に係る詳細設計 T4-添3-3</p> <p> 3.1 有毒ガスに対する防護措置 T4-添3-3</p> <p> 3.1.1 固定源に対する防護措置 T4-添3-3</p> <p> 3.1.2 可動源に対する防護措置 T4-添3-4</p> <p>4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価 T4-添3-5</p> <p> 4.1 評価条件 T4-添3-5</p> <p> 4.1.1 評価の概要 T4-添3-5</p> <p> 4.1.2 評価事象の選定 T4-添3-5</p> <p> 4.1.3 有毒ガス到達経路の選定 T4-添3-5</p> <p> 4.1.4 有毒ガス放出率の計算 T4-添3-5</p> <p> 4.1.5 大気拡散の評価 T4-添3-7</p> <p> 4.1.6 有毒ガス濃度評価 T4-添3-10</p> <p> 4.1.7 有毒ガス防護判断基準値 T4-添3-10</p> <p> 4.1.8 有毒ガス防護判断基準値に対する割合 T4-添3-10</p> <p> 4.1.9 有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算及び判断基準値との比較 T4-添3-11</p> <p> 4.2 評価結果 T4-添3-11</p> <p> 4.2.1 有毒ガス防護判断基準値に対する割合 T4-添3-11</p> <p> 4.2.2 有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算 T4-添3-11</p> <p> 4.3 有毒ガス濃度評価のまとめ T4-添3-11</p> <p>別添 固定源及び可動源の特定について</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-i -</p>	<p style="text-align: center;">備 考</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p>3. 中央制御室の機能に係る詳細設計</p> <p>3.1 有毒ガスに対する防護措置</p> <p>1次冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常が発生した場合に発電用原子炉の運転の停止その他の発電用原子炉施設の安全性を確保するための措置をとるため、次のような対策により中央制御室内の運転員に対し、有毒ガスによる影響により、対処能力が著しく低下することがないように考慮し、運転員が中央制御室内にとどまり、事故対策に必要な各種の操作、措置を行うことができる設計とする。</p> <p>中央制御室は、固定源に対しては、貯蔵容器すべてが損傷し、有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定し、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護判断基準値を下回る設計とする。</p> <p>可動源に対しては、通信連絡設備による連絡、中央制御室空調装置の隔離、防護具の着用等により運転員を防護できる設計とする。</p> <p>なお、有毒化学物質は、有毒ガス評価ガイドを参照して、有毒ガス防護に係る影響評価を実施し、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から、有毒化学物質の揮発性等の性状、貯蔵量、建屋内保管、換気等の貯蔵状況等を踏まえ、敷地内及び中央制御室等から半径10km以内にある敷地外の固定源並びに可動源を特定し、特定した有毒化学物質に対して有毒ガス防護判断基準値を設定する。固定源及び可動源の特定方法及び特定結果については、別添「固定源及び可動源の特定について」に示す。</p> <p>3.1.1 固定源に対する防護措置</p> <p>固定源に対しては、貯蔵容器すべてが損傷し、有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定し、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護判断基準値を下回る設計とする。固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等は、現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定する。</p> <p>運転員の吸気中の有毒ガス濃度が、有毒ガス防護判断基準値を下回ることの評価については、「4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価」に示す。</p> <p>3.1.2 可動源に対する防護措置</p> <p>可動源に対しては、通信連絡設備による連絡、中央制御室空調装置の隔離、防護具の着用等により運転員を防護できる設計とする。</p>	<p>3. 中央制御室の機能に係る詳細設計</p> <p>3.1 有毒ガスに対する防護措置</p> <p>1次冷却系統に係る発電用原子炉施設の損壊又は故障その他の異常が発生した場合に発電用原子炉の運転の停止その他の発電用原子炉施設の安全性を確保するための措置をとるため、次のような対策により中央制御室内の運転員に対し、有毒ガスによる影響により、対処能力が著しく低下することがないように考慮し、運転員が中央制御室内にとどまり、事故対策に必要な各種の操作、措置を行うことができる設計とする。</p> <p>中央制御室は、固定源に対しては、貯蔵容器すべてが損傷し、有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定し、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護判断基準値を下回る設計とする。</p> <p>可動源に対しては、通信連絡設備による連絡、中央制御室空調装置の隔離、防護具の着用等により運転員を防護できる設計とする。</p> <p>なお、有毒化学物質は、有毒ガス評価ガイドを参照して、有毒ガス防護に係る影響評価を実施し、有毒ガスが大気中に多量に放出されるかの観点から、有毒化学物質の揮発性等の性状、貯蔵量、建屋内保管、換気等の貯蔵状況等を踏まえ、敷地内及び中央制御室等から半径10km以内にある敷地外の固定源並びに可動源を特定し、特定した有毒化学物質に対して有毒ガス防護判断基準値を設定する。固定源及び可動源の特定方法及び特定結果については、別添「固定源及び可動源の特定について」に示す。</p> <p>3.1.1 固定源に対する防護措置</p> <p>固定源に対しては、貯蔵容器すべてが損傷し、有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定し、運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が、有毒ガス防護判断基準値を下回ること、<u>技術基準規則別記-9で規定される固定源からの「有毒ガスの発生」はなく、同規則に基づく有毒ガスの発生を検出するための装置及び当該装置が有毒ガスの発生を検出した場合に自動的に警報するための装置の設置を不要とする設計とする。</u></p> <p><u>固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤等について、毒物及び劇物取締法の要求に基づき設置する堰及び漏えいした有毒化学物質の蒸発を低減する覆いは、それぞれ設計上の配慮により構造上更地となるような壊れ方はしないことから、現場の設置状況を踏まえ、評価条件を設定する。</u></p> <p>運転員の吸気中の有毒ガス濃度が、有毒ガス防護判断基準値を下回ることの評価については、「4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価」に示す。</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化 (次頁への記載内容繰り下がり)</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p style="text-align: center;">変更前</p> <p>(1) 通信連絡 可動源から有毒ガスが発生した場合において、発電所内の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡設備（発電所内）による連絡体制を整備する。 具体的な通信連絡設備については、平成27年10月9日付け原規規発第1510091号にて認可された工事計画の添付資料10「通信連絡設備に関する説明書」に従う。</p> <p>(2) 換気設備 可動源から発生した有毒ガスに対して、中央制御室空調装置の外気取入れを手動で遮断し、閉回路循環方式に切り換えることにより、外部雰囲気から隔離できる設計とする。 具体的な、換気設備の機能については、令和元年5月20日付け原規規発第1905202号にて認可された工事計画の添付資料5「中央制御室の居住性に関する説明書」に従う。</p> <p>(3) 防護具の着用 可動源から発生した有毒ガスから運転員を防護するため、防毒マスク及び酸素呼吸器（12個、3・4号機共用）を配備する。防毒マスク及び酸素呼吸器の配備場所を第1図に示す。可動源から有毒ガスが発生した場合には、当直課長の指示により、運転員は防毒マスク又は酸素呼吸器を着用する。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-4 -</p>	<p>3.1.2 可動源に対する防護措置 可動源に対しては、<u>立会人の随行、通信連絡設備による連絡、中央制御室空調装置の隔離、防護具の着用等により運転員を防護することで、技術基準規則別記-9に基づく有毒ガスの発生を検出するための装置及び当該装置が有毒ガスの発生を検出した場合に自動的に警報するための装置の設置を不要とする設計とする。</u> <u>また、可動源から有毒ガスが発生した場合においては、漏えいに対する希釈等の終息活動により有毒ガスの発生を低減するための活動を実施する。</u></p> <p style="text-align: center;">変更後</p> <p>(1) 立会人の随行 発電所敷地内に可動源が入構する場合には、立会人を随行させることで、可動源から有毒ガスが発生した場合に認知可能な体制を整備する。</p> <p>(2) 通信連絡 可動源から有毒ガスが発生した場合において、発電所内の通信連絡をする必要のある場所との通信連絡設備（発電所内）による連絡体制を整備する。 具体的な通信連絡設備については、平成27年10月9日付け原規規発第1510091号にて認可された工事計画の添付資料10「通信連絡設備に関する説明書」に従う。</p> <p>(3) 換気設備 可動源から発生した有毒ガスに対して、中央制御室空調装置の外気取入れを手動で遮断し、閉回路循環方式に切り換えることにより、外部雰囲気から隔離できる設計とする。 具体的な、換気設備の機能については、令和元年5月20日付け原規規発第1905202号にて認可された工事計画の添付資料5「中央制御室の居住性に関する説明書」に従う。</p> <p>(4) 防護具の着用 可動源から発生した有毒ガスから運転員を防護するため、防毒マスク及び酸素呼吸器（12個、3・4号機共用）を配備する。防毒マスク及び酸素呼吸器の配備場所を第1図に示す。可動源から有毒ガスが発生した場合には、当直課長の指示により、運転員は防毒マスク又は酸素呼吸器を着用する。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-4 -</p>	<p>記載の適正化 (前頁記載内容繰り下がり)</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p>

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p>4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価</p> <p>4.1 評価条件</p> <p>中央制御室の有毒ガス濃度評価に当たって、評価手順及び評価条件を本項において示す。</p> <p>4.1.1 評価の概要</p> <p>固定源から放出される有毒ガスにより、中央制御室にとどまる運転員の吸気中の有毒ガス濃度が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回ることを評価する。</p> <p>評価に当たっては、受動的に機能を発揮する設備として、固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する防液堤を評価上考慮する。</p> <p>具体的な手順は以下のとおり。</p> <p>(1) 評価事象は、評価対象となる固定源から有毒化学物質が漏えいし、有毒ガスが発生することを想定する。なお、固定源について、中央制御室にとどまる運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が厳しくなるよう選定する。</p> <p>(2) 評価事象に対して、固定源から発生した有毒ガスが、中央制御室空調装置の外気取入口に到達する経路を選定する。</p> <p>(3) 発電所敷地内の気象データを用いて、有毒ガスの放出源から大気中への蒸発率及び大気拡散を計算し、中央制御室空調装置の外気取入口における有毒ガス濃度を計算する。</p> <p>4.1.2 評価事象の選定</p> <p>評価対象とする貯蔵容器から防液堤に有毒化学物質の全量が漏えいし、有毒ガスが発生することを想定する。</p> <p>4.1.3 有毒ガス到達経路の選定</p> <p>固定源から発生した有毒ガスについては、中央制御室空調装置の外気取入口に到達する経路を選定する。</p> <p>有毒ガス到達経路のイメージを第2図に示す。</p> <p>4.1.4 有毒ガス放出率の計算</p> <p>敷地内の貯蔵容器全てが損傷し、貯蔵されている有毒化学物質が全量防液堤に流出することによって発生した有毒ガスが大気中に放出されることを想定し、大気中への有毒ガスの放出量を評価する。この際、運転員の吸気中の有毒ガス濃度への影響を考慮して、敷地内の固定源に貯蔵された有毒化学物質の物性、保管状態、放出形態及び気象データ等の評価条件を適切に設定する。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-5 -</p>	<p>4. 中央制御室の有毒ガス濃度評価</p> <p>4.1 評価条件</p> <p>中央制御室の有毒ガス濃度評価に当たって、評価手順及び評価条件を本項において示す。</p> <p>4.1.1 評価の概要</p> <p>固定源から放出される有毒ガスにより、中央制御室にとどまる運転員の吸気中の有毒ガス濃度が、有毒ガス防護のための判断基準値を下回ることを評価する。</p> <p>評価に当たっては、受動的に機能を発揮する設備として、固定源の有毒ガス影響を軽減することを期待する堰及び覆い（以下「防液堤等」という。）を評価上考慮する。</p> <p>具体的な手順は以下のとおり。</p> <p>(1) 評価事象は、評価対象となる固定源から有毒化学物質が漏えいし、有毒ガスが発生することを想定する。なお、固定源について、中央制御室にとどまる運転員の吸気中の有毒ガス濃度の評価結果が厳しくなるよう選定する。</p> <p>(2) 評価事象に対して、固定源から発生した有毒ガスが、中央制御室空調装置の外気取入口に到達する経路を選定する。</p> <p>(3) 発電所敷地内の気象データを用いて、有毒ガスの放出源から大気中への蒸発率及び大気拡散を計算し、中央制御室空調装置の外気取入口における有毒ガス濃度を計算する。</p> <p>4.1.2 評価事象の選定</p> <p>評価対象とする貯蔵容器から防液堤等に有毒化学物質の全量が漏えいし、有毒ガスが発生することを想定する。</p> <p>4.1.3 有毒ガス到達経路の選定</p> <p>固定源から発生した有毒ガスについては、中央制御室空調装置の外気取入口に到達する経路を選定する。</p> <p>有毒ガス到達経路を第2図に示す。</p> <p>4.1.4 有毒ガス放出率の計算</p> <p>評価対象とする貯蔵容器全てが損傷し、貯蔵されている有毒化学物質が全量防液堤等に流出することによって発生した有毒ガスが大気中に放出されることを想定し、大気中への有毒ガスの放出量を評価する。この際、運転員の吸気中の有毒ガス濃度への影響を考慮して、敷地内の固定源に貯蔵された有毒化学物質の物性、保管状態、</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-5 -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">記載の適正化</p> <p style="text-align: center;">(次頁への記載内容繰り下がり)</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表
 【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p>R : ガス定数 (J/kmol・K) T : 温度 (K) U : 風速 (m/s) Z : 防液堤開口部面積の等価直径 (m) (=√(4A/π)) Sc : 化学物質のシュミット数 ν : 動粘性係数 (m²/s) D_H : 化学物質の分子拡散係数 (m²/s) D_{H2O} : 温度T (K)、圧力Pv (Pa)における水の分子拡散係数 (m²/s) M_{H2O} : 水の分子量 (kg/kmol) D₀ : 水の拡散係数 (=2.2×10⁻⁶m²/s)</p> <p>(3) 評価の対象とする固定源 有毒ガス評価ガイドに従って選定した敷地内外における固定源を対象とする。 評価の対象とする敷地内外の固定源を第4図及び第5図に示す。</p> <p>4.1.5 大気拡散の評価 発電所敷地内の気象データを用いて、大気拡散を計算して相対濃度を計算する。 固定源の大気拡散計算の評価条件を第3表に示す。</p> <p>(1) 大気拡散評価モデル 固定源から放出された有毒ガスが、大気を拡散して評価点に到達するまでの計算は、ガウスプルームモデルを適用する。 相対濃度は、毎時刻の気象項目と実効的な放出継続時間をもとに、評価点ごとに次式のとおり計算する。</p> $X/Q = \frac{1}{r} \sum_{i=1}^r (X/Q)_i \cdot d_i$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(X/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(X/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sum_{yi} \cdot \sum_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sum_{zi}^2}\right)$ <p style="text-align: center;">- T4-添3-7 -</p>	<p>R : ガス定数 (J/kmol・K) T : 温度 (K) U : 風速 (m/s) Z : 防液堤等開口部面積の等価直径 (m) (=√(4A/π)) Sc : 化学物質のシュミット数 ν : 動粘性係数 (m²/s) D_H : 化学物質の分子拡散係数 (m²/s) D_{H2O} : 温度T (K)、圧力Pv (Pa)における水の分子拡散係数 (m²/s) M_{H2O} : 水の分子量 (kg/kmol) D₀ : 水の拡散係数 (=2.2×10⁻⁶m²/s)</p> <p>(3) 評価の対象とする固定源 有毒ガス評価ガイドに従って選定した敷地内外における固定源を対象とする。 評価の対象とする敷地内外の固定源を第4図及び第5図に示す。</p> <p>4.1.5 大気拡散の評価 発電所敷地内の気象データを用いて、大気拡散を計算して相対濃度を計算する。 固定源の大気拡散計算の評価条件を第3表に示す。</p> <p>(1) 大気拡散評価モデル 固定源から放出された有毒ガスが、大気を拡散して評価点に到達するまでの計算は、ガウスプルームモデルを適用する。 相対濃度は、毎時刻の気象項目と実効的な放出継続時間をもとに、評価点ごとに次式のとおり計算する。</p> $X/Q = \frac{1}{r} \sum_{i=1}^r (X/Q)_i \cdot d_i$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(X/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(X/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sum_{yi} \cdot \sum_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sum_{zi}^2}\right)$ <p style="text-align: center;">- T4-添3-7 -</p>	<p>記載の適正化</p>

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
<p>4.1.6 有毒ガス濃度評価</p> <p>有毒ガス濃度評価においては、中央制御室空調装置の外気取入口における濃度を用いる。中央制御室空調装置の外気取入口に到達する有毒ガスの濃度は、「4.1.4 有毒ガス放出率の計算」及び「4.1.5 大気拡散の評価」の結果を用いて、次式を用いて算出する。</p> $C_{ppm} = \frac{C}{M} \times 22.4 \times \frac{T}{273.15} \times 10^6$ <p> $C = E \times \frac{\chi}{Q}$ (液体状有毒化学物質の評価) $C = q_{GW} \times \frac{\chi}{Q}$ (ガス状有毒化学物質の評価) </p> <p> C_{ppm}: 外気濃度 (ppm) C: 外気濃度 (kg/m³)=(g/L) M: 化学物質の分子量 (g/mol) T: 温度 (K) E: 蒸発率 (kg/s) q_{GW}: 質量放出率 (kg/s) $\frac{\chi}{Q}$: 相対濃度 (s/m³) </p> <p>4.1.7 有毒ガス防護判断基準値</p> <p>有毒ガス防護判断基準値については、有毒ガス評価ガイドの考え方に従い、NIOSH (米国国立労働安全衛生研究所) で定められているIDLH値 (急性の毒性限度) 及び日本産業衛生学会が定める最大許容濃度等を用いて、有毒化学物質ごとに設定する。固定源の有毒ガス防護判断基準値を第4表に示す。</p> <p>4.1.8 有毒ガス防護判断基準値に対する割合</p> <p>固定源について、「4.1.6 有毒ガス濃度評価」の計算結果を「4.1.7 有毒ガス防護判断基準値」で除して求めた値について、毎時刻の濃度を年間について小さい方から順に並べた累積出現頻度97%^(註)に当たる値を用いる。</p> <p>同じ防液堤内に複数の固定源がある場合は、複数の固定源が同時に損傷すると中和や希釈により防液堤内の有毒化学物質の濃度が低下し、有毒ガス放出率が小さくなることから、単独で損傷した場合の有毒ガス防護判断基準値に対する割合を固定源ごとに評価した上で、最大となる値を用いる。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-10 -</p>	<p>4.1.6 有毒ガス濃度評価</p> <p>有毒ガス濃度評価においては、中央制御室空調装置の外気取入口における濃度を用いる。中央制御室空調装置の外気取入口に到達する有毒ガスの濃度は、「4.1.4 有毒ガス放出率の計算」及び「4.1.5 大気拡散の評価」の結果を用いて、次式を用いて算出する。</p> $C_{ppm} = \frac{C}{M} \times 22.4 \times \frac{T}{273.15} \times 10^6$ <p> $C = E \times \frac{\chi}{Q}$ (液体状有毒化学物質の評価) $C = q_{GW} \times \frac{\chi}{Q}$ (ガス状有毒化学物質の評価) </p> <p> C_{ppm}: 外気濃度 (ppm) C: 外気濃度 (kg/m³)=(g/L) M: 化学物質の分子量 (g/mol) T: 温度 (K) E: 蒸発率 (kg/s) q_{GW}: 質量放出率 (kg/s) $\frac{\chi}{Q}$: 相対濃度 (s/m³) </p> <p>4.1.7 有毒ガス防護判断基準値</p> <p>有毒ガス防護判断基準値については、有毒ガス評価ガイドの考え方に従い、NIOSH (米国国立労働安全衛生研究所) で定められているIDLH値 (急性の毒性限度) 及び日本産業衛生学会が定める最大許容濃度等を用いて、有毒化学物質ごとに設定する。固定源の有毒ガス防護判断基準値を第4表に示す。</p> <p>4.1.8 有毒ガス防護判断基準値に対する割合</p> <p>固定源について、「4.1.6 有毒ガス濃度評価」の計算結果を「4.1.7 有毒ガス防護判断基準値」で除して求めた値について、毎時刻の濃度を年間について小さい方から順に並べた累積出現頻度97%^(註)に当たる値を用いる。</p> <p>同じ防液堤内に複数の固定源がある場合は、複数の固定源が同時に損傷すると中和や希釈により防液堤内の有毒化学物質の濃度が低下し、有毒ガス放出率が小さくなることから、単独で損傷した場合の有毒ガス防護判断基準値に対する割合を固定源ごとに評価した上で、最大となる値を用いる。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-10 -</p>	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前				変更後				備考
第1表 固定源の評価条件 (1/8)				第1表 固定源の評価条件 (1/8)				記載の適正化
項目	評価条件	選定理由	備考	項目	評価条件	選定理由	備考	
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 塩酸貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質である塩酸を貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。) -防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 塩酸貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質である塩酸を貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。) -防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	
有毒化学物質の種類 (濃度)	塩酸 (34%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生の抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	有毒化学物質の種類 (濃度)	塩酸 (34%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生の抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生の抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定		有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定		
第1表 固定源の評価条件 (2/8)				第1表 固定源の評価条件 (2/8)				
項目	評価条件	選定理由	備考	項目	評価条件	選定理由	備考	
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 塩酸貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質である塩酸を貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。) -防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 塩酸貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質である塩酸を貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。) -防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	
有毒化学物質の種類 (濃度)	塩酸 (34%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生の抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	有毒化学物質の種類 (濃度)	塩酸 (34%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生の抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生の抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定		有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定		
※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。				※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。				記載の適正化

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考																																
<p style="text-align: center;">第1表 固定源の評価条件 (3/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定源の種類 (設備名)</td> <td>敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)</td> <td>有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定</td> <td>有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質の種類 (濃度)</td> <td>アンモニア (19%)</td> <td>有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質漏えい時の開口部面積</td> <td>38m²※1</td> <td>有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	備考	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	<p style="text-align: center;">第1表 固定源の評価条件 (3/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定源の種類 (設備名)</td> <td>敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)</td> <td>有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定</td> <td>有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質の種類 (濃度)</td> <td>アンモニア (19%)</td> <td>有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質漏えい時の開口部面積</td> <td>38m²※1</td> <td>固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	備考	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	<p>記載の適正化</p>
項目	評価条件	選定理由	備考																															
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)																															
有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)																															
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)																															
項目	評価条件	選定理由	備考																															
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)																															
有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)																															
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)																															
<p style="text-align: center;">第1表 固定源の評価条件 (4/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定源の種類 (設備名)</td> <td>敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)</td> <td>有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定</td> <td>有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質の種類 (濃度)</td> <td>アンモニア (19%)</td> <td>有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質漏えい時の開口部面積</td> <td>38m²※1</td> <td>有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	備考	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	<p style="text-align: center;">第1表 固定源の評価条件 (4/8)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価条件</th> <th>選定理由</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定源の種類 (設備名)</td> <td>敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)</td> <td>有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定</td> <td>有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質の種類 (濃度)</td> <td>アンモニア (19%)</td> <td>有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)</td> </tr> <tr> <td>有毒化学物質漏えい時の開口部面積</td> <td>38m²※1</td> <td>固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</td> <td>-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	評価条件	選定理由	備考	固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	<p>記載の適正化</p>
項目	評価条件	選定理由	備考																															
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)																															
有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)																															
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)																															
項目	評価条件	選定理由	備考																															
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 アンモニア貯槽)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるアンモニアを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 -有毒化学物質の名称 -有毒化学物質の貯蔵量 -有毒化学物質の貯蔵方法 -原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)																															
有毒化学物質の種類 (濃度)	アンモニア (19%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	-防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)																															
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	固定源に設置された防液堤等の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定	-電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)																															
<p>※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-13 -</p>	<p>※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。</p> <p style="text-align: center;">- T4-添3-13 -</p>																																	

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前		変更後		備考
第1表 固定源の評価条件 (5/8)		第1表 固定源の評価条件 (5/8)		記載の適正化
項目	評価条件	選定理由	備考	
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (3号機 ヒドラジン原液 タンク)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるヒドラジンを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 - 有毒化学物質の名称 - 有毒化学物質の貯蔵量 - 有毒化学物質の貯蔵方法 - 原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	
有毒化学物質の種類 (濃度)	ヒドラジン (40%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	- 防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	<u>有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</u>	- 電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	
第1表 固定源の評価条件 (6/8)		第1表 固定源の評価条件 (6/8)		
項目	評価条件	選定理由	備考	
固定源の種類 (設備名)	敷地内固定源 (4号機 ヒドラジン原液 タンク)	有毒ガスを発生するおそれのある有毒化学物質であるヒドラジンを貯蔵する施設であり、大気中に有毒ガスを大量に放出させるおそれがあることから選定	有毒ガス評価ガイド 3.1.(3) 調査対象としている固定源及び可動源に対して、次の項目を確認する。 - 有毒化学物質の名称 - 有毒化学物質の貯蔵量 - 有毒化学物質の貯蔵方法 - 原子炉制御室等及び重要操作地点と有毒ガスの発生源との位置関係(距離、高さ、方位を含む。)	
有毒化学物質の種類 (濃度)	ヒドラジン (40%)	有毒化学物質濃度の運用値に余裕を見込んだ値として設定	- 防液堤の有無(防液堤がある場合は、防液堤までの最短距離、防液堤の内面積及び廃液処理槽の有無)(解説-5)	
有毒化学物質漏えい時の開口部面積	38m ² ※1	<u>有毒化学物質の貯蔵施設が設置された防液堤に設置した有毒ガス発生抑制が見込める設備の開口部面積に余裕を見込んだ値として設定</u>	- 電源、人的操作等を必要とせずに、有毒ガス発生抑制等の効果が見込める設備(例えば、防液堤内のフロート等)(解説-5)	
※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。		※1：実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となる。		記載の適正化

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書】

変更前					変更後					備考
第6表 固定源による有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算結果					第6表 固定源による有毒ガス防護判断基準値に対する割合の合算結果					記載の適正化
着目方位	発生源	有毒ガス防護判断基準値比	有毒ガス防護判断基準値比の和		着目方位	発生源	有毒ガス防護判断基準値比	有毒ガス防護判断基準値比の和		
			同一方位	隣接方位を考慮				同一方位	隣接方位を考慮	
N	—	—	—	—	N	—	—	—	—	
NNE	—	—	—	—	NNE	—	—	—	—	
NE	—	—	—	—	NE	—	—	—	—	
ENE	敷地外固定源（塩素）	0.01	0.01	0.01	ENE	敷地外固定源（塩素）	0.01	0.01	0.01	
E	—	—	—	—	E	—	—	—	—	
ESE	—	—	—	—	ESE	—	—	—	—	
SE	—	—	—	—	SE	—	—	—	—	
SSE	敷地内固定源（4号機塩酸貯槽 ^{※1} ）	0.33	0.33	0.33	SSE	敷地内固定源（4号機塩酸貯槽 ^{※1} ）	0.33	0.33	0.33	
S	—	—	—	—	S	—	—	—	—	
SSW	—	—	—	—	SSW	—	—	—	—	
SW	—	—	—	—	SW	—	—	—	—	
WSW	—	—	—	—	WSW	—	—	—	—	
W	敷地内固定源（3号機塩酸貯槽 ^{※1} ）	0.38	0.38	0.38	W	敷地内固定源（3号機塩酸貯槽 ^{※1} ）	0.38	0.38	0.38	
WNW	—	—	—	—	WNW	—	—	—	—	
NW	敷地外固定源（アンモニア）	0.44	0.44	0.44	NW	敷地外固定源（アンモニア）	0.44	0.44	0.44	
NNW	—	—	—	—	NNW	—	—	—	—	
<p>※1：同じ防液堤に複数の敷地内固定源がある場合は、有毒ガス防護判断基準値が最大となる敷地内固定源の結果を記載。また、実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となり、有毒ガス防護判断基準濃度比は30%減となる。</p>					<p>※1：同じ防液堤等に複数の敷地内固定源がある場合は、有毒ガス防護判断基準値が最大となる敷地内固定源の結果を記載。また、実開口部面積とした場合、開口部面積は約30%減となり、有毒ガス防護判断基準濃度比は30%減となる。</p>					
- T4-添3-25 -					- T4-添3-25 -					

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書 別添 固定源及び可動源の特定について】

変更前	変更後	備考																																																														
<p>第2.2-3表 受動的に機能を発揮する設備（敷地内固定源）</p> <table border="1" data-bbox="320 531 1151 779"> <thead> <tr> <th>敷地内固定源</th> <th>受動的に機能を発揮する設備</th> <th>防液堤開口部面積(m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3号機塩酸貯槽</td> <td rowspan="3">防液堤[■](堰、覆い) (共通設備)</td> <td rowspan="3">38</td> </tr> <tr> <td>3号機アンモニア貯槽</td> </tr> <tr> <td>3号機ヒドラジン原液タンク</td> </tr> <tr> <td>4号機塩酸貯槽</td> <td rowspan="3">防液堤[■](堰、覆い) (共通設備)</td> <td rowspan="3">38</td> </tr> <tr> <td>4号機アンモニア貯槽</td> </tr> <tr> <td>4号機ヒドラジン原液タンク</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2.2-4表 建屋内保管により調査対象外とする際に考慮した設備</p> <table border="1" data-bbox="320 852 1151 1335"> <thead> <tr> <th>建屋内薬品タンク</th> <th>機能を発揮する設備^(注1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3号機塩酸計量槽</td> <td>3号機復水処理建屋</td> </tr> <tr> <td>4号機塩酸計量槽</td> <td>4号機復水処理建屋</td> </tr> <tr> <td>1号機ヒドラジン原液タンク</td> <td>1・2号機タービン建屋</td> </tr> <tr> <td>2号機ヒドラジン原液タンク</td> <td>1・2号機タービン建屋</td> </tr> <tr> <td>1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>1・2号機固体廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>1・2号機固体廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>3・4号機廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>3・4号機廃棄物処理建屋</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 建屋は常時は排気ファンにより換気されており、有毒化学物質漏えい時には建屋内拡散後、排気ファンにより希釈され、建屋外に放出される。</p> <p style="text-align: center;">- T4-別添-5 -</p>	敷地内固定源	受動的に機能を発揮する設備	防液堤開口部面積(m ²)	3号機塩酸貯槽	防液堤 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38	3号機アンモニア貯槽	3号機ヒドラジン原液タンク	4号機塩酸貯槽	防液堤 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38	4号機アンモニア貯槽	4号機ヒドラジン原液タンク	建屋内薬品タンク	機能を発揮する設備 ^(注1)	3号機塩酸計量槽	3号機復水処理建屋	4号機塩酸計量槽	4号機復水処理建屋	1号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋	2号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋	1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋	1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋	3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋	3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋	<p>第2.2-3表 受動的に機能を発揮する設備（敷地内固定源）</p> <table border="1" data-bbox="1409 527 2240 810"> <thead> <tr> <th>敷地内固定源</th> <th>受動的に機能を発揮する設備</th> <th>防液堤等開口部面積(m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3号機塩酸貯槽</td> <td rowspan="3">防液堤等[■](堰、覆い) (共通設備)</td> <td rowspan="3">38</td> </tr> <tr> <td>3号機アンモニア貯槽</td> </tr> <tr> <td>3号機ヒドラジン原液タンク</td> </tr> <tr> <td>4号機塩酸貯槽</td> <td rowspan="3">防液堤等[■](堰、覆い) (共通設備)</td> <td rowspan="3">38</td> </tr> <tr> <td>4号機アンモニア貯槽</td> </tr> <tr> <td>4号機ヒドラジン原液タンク</td> </tr> </tbody> </table> <p>第2.2-4表 建屋内保管により調査対象外とする際に考慮した設備</p> <table border="1" data-bbox="1409 884 2240 1367"> <thead> <tr> <th>建屋内薬品タンク</th> <th>機能を発揮する設備^(注1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3号機塩酸計量槽</td> <td>3号機復水処理建屋</td> </tr> <tr> <td>4号機塩酸計量槽</td> <td>4号機復水処理建屋</td> </tr> <tr> <td>1号機ヒドラジン原液タンク</td> <td>1・2号機タービン建屋</td> </tr> <tr> <td>2号機ヒドラジン原液タンク</td> <td>1・2号機タービン建屋</td> </tr> <tr> <td>1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>1・2号機固体廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>1・2号機固体廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>3・4号機廃棄物処理建屋</td> </tr> <tr> <td>3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)</td> <td>3・4号機廃棄物処理建屋</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 建屋は常時は排気ファンにより換気されており、有毒化学物質漏えい時には建屋内拡散後、排気ファンにより希釈され、建屋外に放出される。</p> <p style="text-align: center;">- T4-別添-5 -</p>	敷地内固定源	受動的に機能を発揮する設備	防液堤等開口部面積(m ²)	3号機塩酸貯槽	防液堤等 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38	3号機アンモニア貯槽	3号機ヒドラジン原液タンク	4号機塩酸貯槽	防液堤等 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38	4号機アンモニア貯槽	4号機ヒドラジン原液タンク	建屋内薬品タンク	機能を発揮する設備 ^(注1)	3号機塩酸計量槽	3号機復水処理建屋	4号機塩酸計量槽	4号機復水処理建屋	1号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋	2号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋	1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋	1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋	3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋	3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋	<p style="text-align: center;">記載の適正化</p>
敷地内固定源	受動的に機能を発揮する設備	防液堤開口部面積(m ²)																																																														
3号機塩酸貯槽	防液堤 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38																																																														
3号機アンモニア貯槽																																																																
3号機ヒドラジン原液タンク																																																																
4号機塩酸貯槽	防液堤 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38																																																														
4号機アンモニア貯槽																																																																
4号機ヒドラジン原液タンク																																																																
建屋内薬品タンク	機能を発揮する設備 ^(注1)																																																															
3号機塩酸計量槽	3号機復水処理建屋																																																															
4号機塩酸計量槽	4号機復水処理建屋																																																															
1号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋																																																															
2号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋																																																															
1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋																																																															
1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋																																																															
3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋																																																															
3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋																																																															
敷地内固定源	受動的に機能を発揮する設備	防液堤等開口部面積(m ²)																																																														
3号機塩酸貯槽	防液堤等 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38																																																														
3号機アンモニア貯槽																																																																
3号機ヒドラジン原液タンク																																																																
4号機塩酸貯槽	防液堤等 [■] (堰、覆い) (共通設備)	38																																																														
4号機アンモニア貯槽																																																																
4号機ヒドラジン原液タンク																																																																
建屋内薬品タンク	機能を発揮する設備 ^(注1)																																																															
3号機塩酸計量槽	3号機復水処理建屋																																																															
4号機塩酸計量槽	4号機復水処理建屋																																																															
1号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋																																																															
2号機ヒドラジン原液タンク	1・2号機タービン建屋																																																															
1・2号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋																																																															
1・2号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	1・2号機固体廃棄物処理建屋																																																															
3・4号機アス固化洗浄剤タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋																																																															
3・4号機アス固化洗浄剤回収タンク (テトラクロロエチレン)	3・4号機廃棄物処理建屋																																																															

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書 別添 固定源及び可動源の特定について】

変更前	変更後	備考
<p>○：堰、■：覆い (3号機塩酸貯槽、アンモニア貯槽、ヒドラジン原液タンク)</p> <p>第2.2-2図 受動的に機能を発揮する設備(敷地内固定源) (1/2)</p> <p>- T4-別添-14 -</p>	<p>—：堰 □：開口部 〇：タンク・基礎 〰：覆い (3号機塩酸貯槽、アンモニア貯槽、ヒドラジン原液タンク)</p> <p>第2.2-2図 受動的に機能を発揮する設備(敷地内固定源) (1/2)</p> <p>- T4-別添-14 -</p>	<p>記載の適正化</p>

【資料3 中央制御室の機能に関する説明書 別添 固定源及び可動源の特定について】

変更前	変更後	備考
<div data-bbox="368 495 1113 1417" data-label="Diagram"> <p>— : 堀、■ : 覆い (4号機塩酸貯槽、アンモニア貯槽、ヒドラジン原液タンク)</p> </div> <p data-bbox="439 1444 1018 1476">第2.2-2図 受動的に機能を発揮する設備 (敷地内固定源) (2/2)</p> <p data-bbox="647 1774 786 1801">- T4-別添-15 -</p>	<div data-bbox="1460 495 2205 1451" data-label="Diagram"> <p>— : 堰 □ : 開口部 田 : タンク・基礎 〰 : 覆い (4号機塩酸貯槽、アンモニア貯槽、ヒドラジン原液タンク)</p> </div> <p data-bbox="1531 1478 2119 1509">第2.2-2図 受動的に機能を発揮する設備 (敷地内固定源) (2/2)</p> <p data-bbox="1745 1774 1884 1801">- T4-別添-15 -</p>	<p data-bbox="2368 911 2540 947">記載の適正化</p>

高浜発電所第4号機 工事計画認可申請書の一部補正 補正前後比較表

【資料5 緊急時対策所の機能に関する説明書】

変更前	変更後	備考
資料5 緊急時対策所の機能に関する説明書	—	記載の適正化 (本資料の削除)